
星の勇者と御伽の世界

Rey

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

星の勇者と御伽の世界

【Nコード】

N4060Z

【作者名】

Rey

【あらすじ】

何気ない平凡な毎日を送る、高校生としての学園生活。毎日が同じように繰り返されているような気がした。そんな中。俺はある日突然、御伽の国の勇者に選ばれてしまった……。

設定紹介（前書き）

本編ではありません。今回も、そしてこれからも自分のペースですつたりと書いて行きますがよかったらみてやってください。

設定紹介

まずは物語の紹介から。

平凡な高校生が御伽話の国の勇者に選ばれてしまい、そこから波乱万丈な物語が展開していくといった物語です。

現実世界では高校生としていつも通りの日常を送り、御伽世界では勇者として活躍し、主人公達の成長を描いていこうと考えたのがこの物語です。

ただメルヘンチックでロマンチックな物語を書きたかっただけなんですけどね（^^;）。そう思いつつ生まれたのがこの物語ですが、今後どうなるかはさっぱり分かりません。とは言っても現時点ではまだ物語始まってませんが（汗）。

というわけで早速、登場人物の紹介をさせていただきます。

まずは主人公。

佐野 翼^{さの 翼}。学校ではあまり目立たない……というか周りから孤立しているという感じの少年。現役高校一年生。臆病で内気な性格なので友達が少ないというのも事実。自分の弱さも分かっていますが、どうにしていかが全く分らず。悩み事も多く、色々大変な人。ストーリーは彼の一人称視点で展開します。

次はヒロインの紹介。

御伽の国の住人である少女。アリス。空想大好きな10歳の少女。好奇心旺盛で賢く物事に積極的なので色々翼のサポートをしてくれる存在であったりします。後は、素直で優しいので色々翼の心

の支えになったりします。

モチーフは不思議の国のアリスの主人公のアリス・リデルから。原作よりすこし成長したかな。まだまだ幼いですが（笑）。

キャラクターは他にも登場させる予定です。日本の昔話の人物も登場させてみようかな。後は、戦闘だけでなく友情とかラブコメとか、そういう要素もあったほうが面白そうだなと思ってますが、大丈夫かな（汗）。

とりあえず今回はここまでにしておきます。第一話をお楽しみに。

設定紹介（後書き）

この調子だと、今後が少し心配だな（汗）。

朝。目覚まし時計が鳴り響く。目覚まし音を止めるとスイッチを切り……。

「学校か……」

そして今日もまた、何も変哲も無い平凡な毎日が始まった……。

???「よう翼」

学校へ着くと早速俺に話しかけてきたのは齊藤^{さいとう} 信吾^{しんご}。数少ない
友達の一人である。

「なに」

信吾「なあ。テスト週間終わつたろ? 今日からテスト返してわけ
だけど、自身あるか?」

俺は勉強は苦手と言うわけではないが、点数が低いものもあれば
高いものもある。科目によって違うわけだが、それは誰にもあるこ
とだろう。

「いや……。まあまあだと思っけどな。全体的に」

信吾「そうか。俺は全然自信ないんだよな」

「信吾、勉強しないからな。」

信吾「おいこら。」

気付けば俺達は腹を抱えて笑っていた。

そんな何気ない日常。どこにでもある普通の光景。嫌ではなかった。

そしてまた、今日も何事も無く一日が終わろうとしていた。

「もう帰りか」

学校に鳴り響く帰りのチャイム。

そして、下駄箱から靴を取り出そうとした時、そこに手紙が入っていることに気付く。

翼「??」

その手紙を開けてみる。手紙には、文章が書き綴られている。その文章を読んでみる。

手紙にはただ、「ここに来てほしい。話したい事がある」と書かれているだけだった。そして、手紙の中にはもう一枚、地図が入っていた。そして森で囲まれているような場所にその罰印があった。

そして俺は、その場所へ向かうことにした。

目的地へ着いた。目の前には巨大な豪邸が建っていた。すると。

「???」「良く来てくれましたね」

豪邸から現れたのは一人の女性だった。20代前半だろうか。服装からすると、メイドといったところだろう。

「あなたは……」

「???」「私はエルザ」

「そうですか。」

エルザ「あなたは翼君であってるわね？」

「なんで俺の名前を……?」

エルザ「あなたに話したい事があってここへ呼んだの。付き合ってくれるかしら」

「構わないけど……。話って?」

エルザ「中に入って。そしたら話すわ」

「あ、ああ……」

エルザに案内され、俺は豪邸の中に入った。

豪邸の中では他のメイド達が忙しそうに働いている。

エルザ「私がメイド長なの」

「そうか」

ええ。とエルザは頷く。

エルザ「ここは、これから貴方あなたの家だから」

「え、俺……の？」

エルザ「ええ。そうよ。主人がいなきゃ私達は働けないし」

「いや、それってどういう……」

エルザ「けど、ここに住むからには私の話を聞いて、それを全部全部受け入れてほしい」

「そつか。話があるって」

エルザ「ええ。じゃあ、これから全部話すわ。あなたの目的と役割ロールを」

俺は小さく頷いた。そして、エルザは全てを話す。

エルザ「貴方はこれから戦士として闘わなければならないという役割を持っているの」

「戦士って……。」

エルザ「ええ。そしてその世界の人々を救いなさい。貴方はその世界の人々の英雄ヒーローとなるでしょう」

「ちょっと待って！」

エルザ「なんでしょうか」

「闘って人を救えって、そんなの俺には出来な

」

エルザ「貴方にならできる。貴方は先祖代々伝わる戦士の血を受け継いでいる。だから、貴方は闘わなければならない。逃げる事は出来ないのよ」

「っ……」

エルザ「どうする？闘うか、逃げるか」

暫くの間、沈黙ひまじの時間が続く。
そして俺は決心した。

「わかった。闘う。救いを求めている人がいるっていうのに、それを放って置くんてできない」

エルザ「それでいいのよ。じゃあ早速、行きましょうか」

「行くって……どこへ？」

エルザ「御伽世界ワンダーランドよ。絵本の世界」

「そんなところ……どうやって……」

エルザ「大丈夫よ。後に付いてきて。案内するわ」

「わかった……」

そして俺はエルザの後に付いていく。あるところに巨大な扉があり、それを開くと延々と続く螺旋階段があった。

エルザ「これを上るの。大丈夫？」

「あ、ああ……」

先ほどまでとはまったく違う空間に思えた。こんなに高かっただろうか。だが、今はそんなことは考えず、ただひたすらに階段を上るまでだった。

そして階段の頂上に到達する。そして、目の前にはまた扉があった。

エルザ「ここが入り口よ。扉を開けなさい」

優しく言うエルザ。そして、俺は言われるがままにその扉を開いた。すると。

そこに広がっていた空間は、まるでこの世のものとは思えないものだった。そして足元の先には延々と長い光り輝く階段が地上へ伸びている。

エルザ「行きなさい。この先が御伽の国の世界よ。幸運を祈ってるわ」

「ああ……。わかった」

そして俺はその階段をただひたすらに下り続けた。

この先には一体何が待ち構えているのだろうか。俺はそんな事を考えていた。

はじめまして。記念すべきプロローグがようやく終わりました。
お疲れ様でした。

今回の話は平凡な高校生がメイド長と出会い、そこから御伽の国へ行く。というものでした。

次の第一話は御伽の国の世界が待っています。

最後まで見てくださってありがとうございます。よかったら感想などどうぞ。

物語の前半と後半。全然世界が違いましたね。しっかりと伝わってるかな。

感想とかあったら是非お願いします。

第一話 新たな出会い ｾ ｈ ｅ ｒ ｏ ｏ ｆ ｗ ｏ ｎ ｄ ｅ ｒ ｌ ａ ｎ ｄ (前書き)

書き忘れていましたが、主人公だけは基本的に台詞の欄に名前は書かないので宜しくお願いします。最初だけは書きますが。

第一話 新たな出会い　hero of wonderland

ただ、階段をひたすら下り続ける。不思議な世界だなと俺は思いながら足を進ませた。

長かった階段もようやく終わり、地に足をつける。そして、目の前に広がっていた光景はまるで別世界のようだった。

町並みを歩く人々。空は蒼く、太陽が街を照らしている。

翼「ここは一体……」

自分の知らない世界にただ驚くばかりだった。ただ、ずっとここに立ち止まっている訳には行かないと思った俺はとりあえず、当ても無く街を歩いた。

しばらく歩いていると、目の前に現れたのは巨大な城だった。そして、その目の前にある巨大な木の周りに人々が集まっている。

「なんだ……?」

俺は人を退かすように前へ進む。そしてその木にあったのは、地面に刺さっている西洋剣だった。

その剣の隣にいたのは、一人の少女だった。青いエプロンドレスを着た金髪の髪が特徴の10歳ぐらいの幼い少女だった。

「??? あなたは?」

と、尋ねる少女。

「俺？」

「???」「ええ」

「佐野 翼っていうんだ。宜しく」

「???」「変わった名前だね。この人じゃないみたいだけど……。
私、アリス。よろしくね」

「こちらこそ」

アリス「翼君。ここに剣があるでしょ？」

「そうだな」

アリス「実はこれは勇者の剣じゃなかった話になっててね。勇者のお話、知ってる？」

「選ばれた勇者だけが、この剣を手に来るって話？」

アリス「そうなの。それがこの剣じゃないのかなって町街中の人
が噂してるの。翼君は、出来ると思う？星の勇者の剣は勇者の血を
受け継いだ者にしか出来ないんだって聞いたことがあるの。また、
その勇者は、私達とは違う世界から来たって言ってたから……。」

「そっか……。わかった。やってみるよ」

アリス「うん……。頑張って」

「ああ」

そして、その剣を手にとると、俺は力強く、剣を抜こうとする。とても重たかった。ただ、ゆっくりと地面から抜けてきている気がした。

そして……。

俺はその剣を手にした。とても重く、それを手にしているだけでも精一杯だった。

アリス「あ……」

「まさか……。そんな……」

アリス「もしかして、あなたも、地球の星から来た人？」

「なんでそれを……？」

アリス「やっぱり。星の勇者様は皆地球の人だって、そう記録に残ってるの。だから……」

「そっか……。アリス。一つ聞きたい事があるんだけどさ」

アリス「なに？」

「不思議の国で冒険をしたって話を聞いたことがあるんだ。それ

が、君じゃないのになって」

アリス「え……。なんで知ってるの？」

「地球ではここのお話は、絵本になってるんだ。それが子供たちに受け継がれている」

アリス「へえ、そうなんだ。じゃあ私の他にも」

「そういうこと。俺は、この御伽世界ワンダーランドを救うために地球から来たんだ」

アリス「そっか……」

第一話 新たな出会い　hero of wonderland（後書き）

第一話、これで終わりました。今回は、絵本の世界に來た翼が勇者に選ばれた。というお話でした。彼が、星の勇者の血を受け継いでいたわけですが、その訳は物語の後半でお伝えしようと思います。

第二話も御伽世界の物語となります。それでは。

今回はちょっと短かったかな（汗）。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4060z/>

星の勇者と御伽の世界

2011年12月21日14時56分発行